

WGへの期待および議論したいこと

坂井 昭一郎:

□所属部署:品質本部 開発革新センター

□会社:株式会社リコー

□興味の対象:

□SPLのスコーピング(特にマーケティング調査の結果との関連)

□ソフトウェアの経済的価値

□価値ベースのソフトウェア工学

経歴および現在の立場

1991年 株式会社ケンウッド入社

- 衛星デジタルラジオの地上局システムを開発するメンバーの一員として組込みソフトウェア開発を生をスタート
- 直流安定化電源を制御するアダプターの開発
- リチウムイオン電池の生産工場で使用する充放電電源のPC用アプリケーションの開発
- 欧州デジタルラジオ開発用の擬似信号発生装置の組込みソフトウェア開発
- 技術試験衛星(ETS-VIII)向けの受信原理試作機の組込みソフトウェア開発

2002年 株式会社リコー入社

- DVDドライブの組込みソフト開発
- ソフトウェア研究所に異動、要求工学の研究に従事
- ソフトウェアプロダクトラインの研究に従事
- 現在の部署に異動

現在は、組織を横断的にみてソフトウェアプロダクトラインを展開していく立場にある。個々の組織が目指す目標にソフトウェアプロダクトラインで得られる成果を整合し、推進とモニタリングを行っている。

困っていること

- 系列製品開発の結果できる再利用の効果を示す、定量的な結果指標や経過指標として何を用いて管理したらよいか困っている。
- シリーズで製品展開しているビジネスユニットでは、ソフトウェアを再利用していないわけではない。むしろ、再利用が重要であることを知っていることのほうが多い。しかしながら、さらなる生産性や品質向上の対策は、製品開発の緊急性に左右されることが多く、コア資産を開発する工数も上下するので計画通りにいかない。
- コア資産を開発に必要な不可欠なドメインエキスパートが抱える問題も影響している。一般的にドメインエキスパートは、製品開発のキーパーソンであり、比較的業務負荷が大きく忙しい。コア資産開発するにあたり、そのナレッジや経験を引き出すスケジュールが思うように確保できない。
- コア資産開発するためのスキルや知識が必要を身に付けてもらうにはどうしたらよいか。ただ、単にこういうドキュメントにこういうことを書けば良いと、型にはめるのもひとつの方法だが、系列製品開発に則した妥当な共通性や変動性の特定するための考え方を身に付けてもらうにはどうしたらよいか困っている。
- 系列製品開発が、機種開発しているどこの部署にも効果的なのか。系列製品開発がシリーズ開発しているあらゆる組織(ドメイン)に対して、生産性をと品質の向上に寄与するのか判断に悩む。
- 系列製品開発でつくるコア資産の設計技術として何を使えばよいのか悩む。ドメインにもよると思うが、オブジェクト指向だと相性が高いのかそれとも設計技術は問わないのか。
 - 極端だが、アセンブラでも系列製品開発できるのか？

WGへの期待

期待すること:

- どのような議論の過程で結論に行き着いたのかというプロセスについても、着目していきたいと思います。
- WGでの成果を参考になが、今後の業務に役立つことを期待しています。

議論したいこと:

- 系列開発による再利用の効果として何を測ればよいのか
- 系列製品開発の導入を、他の業務に影響を受けずに計画通りに進めるには、こういった仕掛けをすればよいのか
- 系列製品開発の再利用資産を作成するエンジニアの効果的な教育は？
- 系列製品開発というアプローチが向かないドメインがあるのか？あるとしたらこういったドメインか？
- 系列製品開発に向いている設計技術は何か？